

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2004年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学	研究科	史学	専攻
指導教員	所属・職名	氏名			
	文学部・教授	荒野 泰典 印			
自然・人文の別	自然 ・ ○ 人文	個人・共同の別	○ 個人 ・ 共同 名		
研究課題	ペリー来航に関するかわら版のデータベース作成				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名			
	文学研究科・史学専攻・博士後期課程5年	田中 葉子 印			
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名			
	文学研究科・史学専攻・博士後期課程5年	田中 葉子			
研究期間	1年間 2004年度				
研究経費	200 千円				

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

ペリー来航に関するかわら版は、これまでの幕末・開国史研究においてその歴史史料としての需要さが指摘されながらも、いまだ本格的な調査がなされてこなかったものである。本研究では、これらかわら版の日本国内での残存状況を把握しデータベースとするため、諸機関での史料調査を行ない、仮データベースを作成した。

史料調査を行なった機関は、財団法人黒船館、印刷博物館、横浜開港資料館、下田了仙寺、下田開国博物館、京都府立総合資料館、大阪城天守閣、大阪府立中ノ島図書館、神戸市立博物館であり、かわら版や関係資料の熟覧・撮影または複写を行ないデータを収集した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[ペリー来航] [かわら版] [データベース]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、今後ペリー来航*1に関するかわら版*2(以下、黒船かわら版と記す)を歴史史料として使用するために、かわら版一点一点の史料調査を行ない、データを収集し、データベース化することを目指した。黒船かわら版の基本的なデータ、つまり、内容や量、発行時期など、史料としての概要を確認するためである。なお、この作業は本研究以前から行っていたものであり、本研究終了後も継続して行なう予定である。

主な成果は、大別して次の4点である。

1 点目 黒船かわら版について大半の版のデータを収集

本研究で史料調査をおこなった諸機関は、財団法人黒船館、印刷博物館、横浜開港資料館、下田了仙寺、下田開国博物館、京都府立総合資料館、大阪城天守閣、大阪府立中ノ島図書館、神戸市立博物館である。

熟覧したかわら版の点数(再調査も含む)はのべ331点であるが、新たに確認した版は9種類であり、本研究中に調査を行った版の多くは、以前からの史料調査において既に確認した版であった。このことから、今後の調査においても新たな版はそれほど多く確認されないと推測される。黒船かわら版は多数の版が現存しているが(現在まで確認した版は319種類)、以前からの史料調査および本研究での史料調査を通じて、その大半のデータを収集することが出来たといえる。

今後の黒船かわら版のデータ収集については、今回未調査に終わった神奈川県立博物館・ニュースパーク・京都大学上野文庫、継続調査の必要な神戸市立博物館、および東京大学・江戸東京博物館・町田市立博物館など都内の諸機関をはじめ東日本を中心に行なう予定である。

2 点目 仮データベースを作成

本研究以前からの史料調査によって集積されたデータと合わせ、仮のデータベースを作成した。データ項目は、史料名、寸法、形態、内容、発行時期、所蔵機関(史料請求番号)、備考である。

今後も諸機関における黒船かわら版の所在確認および史料調査を継続して行ない、逐次データベースに加えていく予定である。

なお、集積された黒船かわら版のデータを、どの時点で、またどのような形で提示して行くのかは検討中である。東京大学史料編纂所画像史料解析センターが作成している「摺物編年目録」を、参考データベースとして念頭においている。

3 点目 諸機関における史料所蔵の経緯を確認

史料調査に際して、学芸員の方からの聞き取りを行ない、各機関での黒船かわら版の所蔵経緯を確認した。また、各地でのコレクションの情報など、今後の史料調査に有益な情報を得ることができた。

4 点目 他の関連史料の調査

史料調査を進めるなかで、黒船かわら版と類似の内容を持つ版本(「新製楽草紙」数種)や、肉筆の記録類を多数確認することができた。これらの史料をもとに、黒船かわら版と同時代の他の史料との間でどのような情報の転載がなされているのか、各史料の製作の際の情報源は何か、といった点を考察していきたい。

なお、「新製楽草紙」は4種類を確認した。それぞれ20丁前後の小本であり、内容にはかなりの違いがあるものであった。これまでの研究でかわら版と考えていた史料のうち13種が「新製楽草紙」から抜き出されたものであることが判明した。

研究成果の概要 つづき

また、ペリーと同じ時期に大坂に来航していたブチャーチンに関するかわら版や、長崎で作成された長崎版画についても調査をすることができた。まだ調査を始めたところであるが、これらの史料から、江戸と大坂、長崎での情報や関心の地域差を考察していきたい。

以上の成果を踏まえ、今後は黒船かわら版の内容分析*3をより進めて行く予定である。

* 1 ペリー来航

① 略年表

嘉永六(1853)年

六月三日(7/8) アメリカ東インド艦隊の軍艦四隻が浦賀に来航

六月四日 老中らが登城・衆議、江戸市中に諸物価高騰の禁止や噂話の禁止の触れ

六月九日 ペリーは久里浜で親書を日本側全権に渡し、翌春の来航を伝える

六月十二日ペリー艦隊、浦賀を出港

幕府は翌年の来航に備え内海に十一の台場を造ることを決定、八月から建設開始
嘉永七年

一月十六日ペリー艦隊、浦賀に七隻で再来航

二月 横浜村での交渉が始まり、日米での贈り物の授受

三月三日 横浜で日米和親条約が調印

ペリーは開港が約束された下田、箱館に来航

六月四日 ペリー艦隊、下田を出港

② 近年の研究状況

- ・ 海防に関わる藩・村の研究
- ・ 藩主レベルでの情報のやり取り
- ・ 資料集の刊行
- ・ 150周年を期とした展示会の開催

* 2 かわら版

江戸時代には主に「読売」「絵双紙」「摺りもの」と呼ばれた一枚刷り或いは数枚綴りの印刷物である。まだ呼称は定まっていないため、本研究では最もポピュラーな「瓦版」の語を元にしたが、瓦による印刷ではなく木版印刷であるため、「瓦」の語を「かわら」として用いることにした。

かわら版は、幕府の許可を得ずに売り出すものであり、一枚刷・墨刷が多い。当時の出版は、掛りの町名主に予め届け許可を得るのが本来の手続である。主な内容は事件、噂話、災害の状況などについてである。

* 3 内容分析

- ① 発行時期：第一回目の来航直後から2回目の来航期
- ② 発行地域：江戸を中心に京・大坂・徳島でも発行あり
- ③ 発行量：300種類を越す、約400点の黒船かわら版の現存が確認される
- ④ 内容分類：大きく3つに分類

- ・ ペリー一行・アメリカに関する情報：人物図、蒸気船図、単語集、贈り物
- ・ 幕府側の対応に関する情報：江戸湾警備(御固・役人附)、台場建設、贈り物
- ・ 川柳や見立て：川柳、狂歌、野保台詩(鎖文字)、広告や武鑑の見立て

※ この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。